

小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発の基礎調査

－ 教科書分析を通して－

鈴木慎一郎*・大野桂**・廣富恵美子***

A Pilot Survey of the Curriculum Development of Appreciation at Cooperation
between Elementary school and Junior High school
: Analysis of Textbook

SUZUKI Shinichiro, OHNO Katsura, HIROTOMI Emiko

キーワード : 小中連携, 鑑賞, カリキュラム, 教科書, 附属学校

Key Words : Cooperation between Elementary school and Junior High school, Appreciation, Curriculum,
Textbook, Attached school

はじめに

本稿の目的は、これまでの鳥取大学附属学校の小中連携に関する取り組みを概観した上で、現行の学習指導要領や音楽教科書の分析を行い、小中連携における鑑賞活動のカリキュラム作成を行う際に必要とされる基礎資料を得ることである。

今日、「中1ギャップ」の問題が浮上している。河村茂雄はその要因として「①学級集団の型の違い、②周りの子どもからのサポートがなくなること、③学級担任制と教科別担任制の違い」を挙げる¹。一方、藤江康彦は「①学校間の文化的、制度的要因、②生態学的、身体的要因、③発達の要因」を挙げ、「「発達」という視点で子どもの「学習」をみとる」重要性を指摘する²。お茶の水女子大学附属小学校・中学校では、「小・中接続期」を次のように定義する³。

小・中の教師が、卒業や入学など、人や環境の大きな変化で生じる子どもの不安、とまどい、緊張、葛藤などを、それぞれの子どもの状況に応じて受けとめる。それをもとに、中学校入学の喜びをバネにしたり、小学校での既有経験を生かして解決の見通しをもったりして、安心して中学校での新しい課題に取り組み、主体的に学習や生活に向かい合う姿勢を育む時期である。

2011（平成23）年に文部科学省から出された「小学校・中学校との連携についての実態調査」の結果によると、小・中連携の成果が認められるという回答は、96%にも及んだ⁴。「成果が認められる」場合の内容としては、図1に示した通りで、「学習指導上の成果があった」は58%であった。

これらの動向を受け、2016（平成28）年度から小中一貫教育が制度化された⁵。今後、4－3－2や5－4といった柔軟な学年段階の区切りの設定や、小・中学校の9年間を一貫させた教育課程

* 鳥取大学地域学部地域教育学科

** 鳥取大学附属小学校

*** 鳥取大学附属中学校

の編成等が進められることが予想される。そこで、本稿では「中1ギャップ」の問題に対し、音楽の視点から取り組むことを計画し、「小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発に関する研究」の研究課題を設定した。なお、2015（平成27）年8月に出された文部科学省教育課程企画特別部会「論点整理」においても、「カリキュラム・マネジメント」の重要性はうたわれている⁶。文部科学省研究開発学校として指定されている広島大学附属三原学校園では、幼小中の12年間一貫カリキュラムが開発され、実践研究が展開されている⁷。

三村真弓は「音楽科の教科書は、学習内容や音楽的能力の系統的育成を目指して構成されているわけではなく、題材や教材を中心に構成されているため、教科書に即した小中一貫カリキュラムの作成は難しい」と指摘する⁸。とはいうものの、カリキュラムを作成する際に、音楽教科書の現状を分析することは、必要不可欠な作業である。

事例としては、鳥取大学附属小学校、鳥取大学附属中学校（以下、鳥取大学附属小・中学校、と略記）を対象とする。現在は、休止されているものの、鳥取大学附属小・中学校は、1999（平成11）年、文部省指定・研究開発学校として、研究主題「未来を拓く小中一貫の新教育課程：教科・総合・特活のあり方を求めて」（1999～2001）に着手して以降、小中連携の実践研究を行ってきた蓄積がある。

研究方法としては、第一にこれまで実践してきた小中連携の取り組みを概観し、成果と課題を明確にする。第二に、現行の学習指導要領ならびに小学校、中学校の音楽教科書における鑑賞教材の傾向を分析する。主に小学校第5学年から中学校第3学年を対象とし、全2社（教育芸術社、教育出版）の分析を行う。以上の作業を通して、今後、小中連携における鑑賞活動のカリキュラムを作成する際に必要とされる基礎的な資料を得たい。

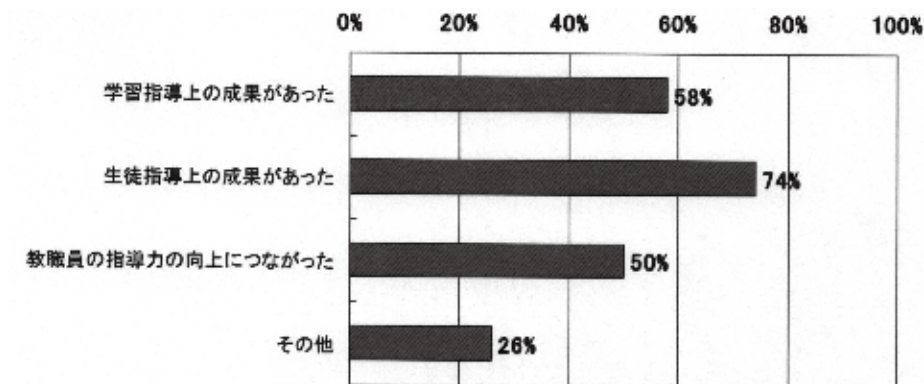


図1 小中連携の取組の「成果が認められる」場合の内容

出典 文部科学省「小学校と中学校との連携についての実態調査（結果）」2011年、57頁。

1. 附属学校の小中連携に関する取り組みの概観

表1は、小中連携の実践研究を実施していた時期の鳥取大学附属小・中学校の発行物である。2011（平成23）年度から小、中、別の研究のまとめとなるため、1999（平成11）年度から2010（平成22）年度までの10年間、小中連携の実践研究を実施していたことが分かる。

当初は文部省研究開発指定学校として、カリキュラム開発から始まった。2003（平成 15）年度は、評価に取り組み、2004（平成 16）年度以降は、学習意欲の育成、そして 2007（平成 19）年度以降は、授業の創造に重点が置かれていた。

表 1 発行物一覧

	書名	年 月
1	研究報告 小学校第 45 集 中学校第 32 集 文部省研究開発学校指定研究（第 2 年次） 未来を拓く小中一貫の新教育課程：児童生徒が自らの生き方を見つめる教科・総合のあり方を求めて	2000（平成 12）年 10 月
2	平成 12 年度研究開発実施報告書 未来を拓く小中一貫の新教育課程：児童生徒が自らの生き方を見つめる教科・総合のあり方を求めて（第 2 年次）	2000（平成 12）年度
3	平成 13 年度研究開発実施報告書 未来を拓く小中一貫の新教育課程：児童生徒が自らの生き方を見つめる教科・総合・特活のあり方を求めて（第 3 年次）	2001（平成 13）年度
4	研究発表会要項 文部科学省指定・研究開発学校（最終年次） 未来を拓く小中一貫の新教育課程：児童生徒が自らの生き方を見つめる教科・総合・特活のあり方を求めて	2001（平成 13）年 11 月
5	研究報告 小学校第 46 集 中学校第 33 集 文部省研究開発学校指定研究（第 3 年次） 未来を拓く小中一貫の新教育課程：児童生徒が自らの生き方を見つめる教科・総合・特活のあり方を求めて	2001（平成 13）年 11 月
6	研究発表会要項 文部科学省指定・研究開発学校（4 年次） 未来を拓く小中一貫の新教育課程：評価を生かす学習のあり方	2002（平成 14）年 12 月
7	平成 14 年度研究のまとめ 小学校第 47 集 中学校第 34 集 文部科学省指定・研究開発学校（4 年次） 未来を拓く小中一貫の新教育課程：評価を生かした学習のあり方	2003（平成 15）年 3 月
8	平成 15 年度研究のまとめ 小学校第 48 集 中学校第 35 集 評価を生かした学習のあり方	2004（平成 16）年 2 月
9	平成 16 年度研究のまとめ 小学校第 49 集 中学校第 36 集 学ぶ意欲を高め、実践的な行動力をもった児童・生徒の育成 ：かかわり合う力、適切に判断する力、自分を生かす力を培う小中一貫教育のあり方	2005（平成 17）年 4 月
10	平成 17 年度研究のまとめ 小学校第 50 集 中学校第 37 集 学ぶ意欲を高め、実践的な行動力をもった児童・生徒の育成 ：かかわり合う力、適切に判断する力、自分を生かす力を培う小	2006（平成 18）年 3 月

	中一貫教育のあり方（二年次）	
11	平成18年度研究のまとめ 小学校第51集 中学校第38集 学ぶ意欲を高め、実践的な行動力をもった児童・生徒の育成 ：かかわり合う力、適切に判断する力、自分を生かす力を培う小 中一貫教育のあり方（三年次）	2007（平成19）年3月
12	平成19年度研究のまとめ 小学校第52集 中学校第39集 学びを創り楽しむ授業の創造 ：小中9年間の連続に学びを問い直す（1年次）	2008（平成20）年3月
13	平成20年度研究のまとめ 学びを創り楽しむ授業の創造（2年次） ：授業づくりの視点からみる連続した学び	2009（平成21）年3月
14	平成21年度実践記録集 学びを創り楽しむ授業の創造	
15	平成22年度研究のまとめ 学びを創り楽しむ授業の創造（3年次） ：自らの成長を実感できる学びをめざして	2011（平成23）年3月

図2は、2001（平成13）年度の研究開発実施報告書に掲載されている「音楽科年間指導計画」である。小学校第1学年から第3学年までを「Ⅰ期」、第4学年・第5学年を「Ⅱ期」、第6学年と中学校第1学年から第3学年までを「Ⅲ期」とし、次の3点が考慮されていた⁹。

- ・日本の伝統的な音楽・郷土の音楽を含む「世界の諸民族の音楽」を系統性・発展性を考慮しながら全学年に2～3題材を目安に取り入れる。
- ・小学校では和太鼓、中学校では箏を中心として和楽器を早い段階から取り入れる。楽器のセッティングの便宜を図り、全学年同じ時期に取り組むようにする。
- ・本校の特色である小学校における韓国との交流、中学校における沖縄修学旅行を生かしたり、教科書教材を発展させたりしながら題材づくりを行っていく。

上記ならびに図3に示されている通り、多文化音楽学習が展開されていたことが分かる。またその際には鑑賞だけで終わるのではなく、体験活動を取り入れている。日本の伝統的な音楽も重視され、小学校では和太鼓、中学校では箏がカリキュラムに位置付けられている。1998（平成10）年の中学校学習指導要領では、一種類以上の和楽器が必修と規定されたのに対し、小学校学習指導要領では現行でも和楽器は必修とされていない。このことから考えても、附属小学校では先進的な取り組みをしているといえる。また、小学校第4、5学年において《貝殻節》も取り上げられ、郷土の音楽も扱われている。なお、現在、中学校の修学旅行は東京のため、沖縄の音楽については実践されていない。

このように9年間のカリキュラムが確立し、小中一貫の教育実践が展開されていた。しかし、この時期にはまだ、中1ギャップが教育病理として扱われていなかったこともあり、小学校高学年から中学校に焦点を当てた実践研究は行われていない。

[illegible]

図2 音楽科年間授業計画

出典 鳥取大学教育地域科学部附属小・中学校『平成13年度研究開発実施報告書』2001年，125頁。

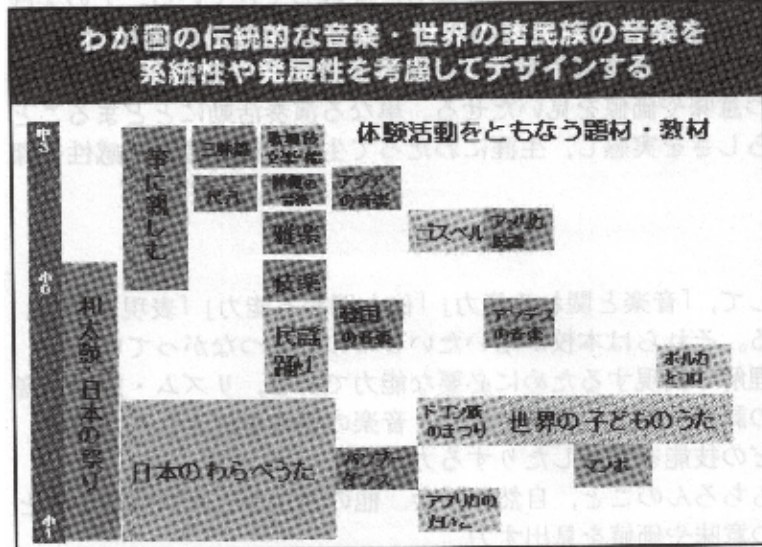


図3 体験活動をともしなう題材・教材

出典 鳥取大学教育地域科学部附属小・中学校『平成 18 年度研究のまとめ』2007 年, 146 頁。

2. 学習指導要領

表2は、「小学校学習指導要領」¹⁰「中学校学習指導要領」¹¹の中から鑑賞に関する記載を抜粋したものである。目標に関して、小学校では「様々な音楽」、中学校では「多様な音楽」とやや表記は異なるものの、西洋音楽に限らず、幅広いジャンルの音楽を取り上げることが目標にしていることが分かる。また、中学校では「主体的」に取り組むことが期待されている。

指導事項に関しては、中学校になると、「その背景となる文化・歴史」や「他の芸術」と関連付けて鑑賞することが求められる。共通する点としては、今回の改訂で重要視された言語に関することが明示され、小学校では「想像したことや感じ取ったことを言葉で表す」、中学校では「言葉で説明する」、「根拠をもって批評する」となっている。

教材に関しては、小学校「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽」、中学校「我が国や郷土の伝統音楽」が明記され、日本の音楽が重視されている。

表2 学習指導要領における鑑賞

学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年	第2学年及び第3学年
目標	様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。	多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。
内 容 指 導 事 項	曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。	音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
	音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。	音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。	音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。
	楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。	我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。	我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。
	教材 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化とのかかわりを感じ取りやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽な	鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。	鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。

	ど、いろいろな種類の楽曲		
	音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く喜びを深めやすい楽曲		
	楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる、合奏、合唱を含めたいろいろな演奏形態による楽曲		

注 『小学校学習指導要領解説音楽編』2008年、『中学校学習指導要領解説音楽編』2008年から作成。

3. 教科書分析

では、実際に小、中の教科書においてどのような鑑賞教材が取り上げられているのだろうか。

表3、4は、鳥取大学附属小・中学校でも使用されている教育芸術社の教科書から鑑賞教材を抜粋したものである¹²。西洋音楽、日本音楽、世界音楽が満遍無く掲載されている。小学校、中学校で同一の教材は、《越天楽》である。西洋音楽の時代区分に着目すると、小学校ではバロック1曲、古典派1曲、ロマン派4曲であり、すべて標題音楽である。中学校ではバロック2曲、古典派2曲、ロマン派6曲、現代1曲であり、1曲のみ絶対音楽に該当する。

表3 教育芸術社の小学校教科書における鑑賞教材

	西洋音楽	日本音楽	世界音楽
5	モーツァルト《アイネ クライネ・ナハトムジーク》第1楽章		
	J. F. ワーグナー《双頭のわしの旗の下に》		
	エルガー《威風堂々》第1番		
		山田耕筰の歌曲	
		宮城道雄《春の海》	
			声による世界の国々の音楽
6	ペツォルト《メヌエット》		
	ホルスト 管弦楽組曲「惑星」から《木星》		
	ブラームス《ハンガリー舞曲第5番》		
		滝廉太郎の歌曲	
		雅楽《越天楽》から	
			楽器による世界の国々の音楽

注 ゴシック体：他社（教育出版）でも扱われている。

表4 教育芸術社の中学校教科書における鑑賞教材

	西洋音楽	日本音楽	世界音楽
1	J. ウィリアムズ 映画「ジョーズ」から《ジョーズ》のテーマ		
	ヴィヴァルディ《春》第1楽章		
	シューベルト《魔王》		
		八橋検校 箏曲《六段の調》	
		尺八曲《巢鶴鈴慕》	
		日本の民謡	
			アジアの諸民族の音楽
2 3 上	バッハ《フーガ短調》		
	ベートーヴェン《交響曲第5番ハ短調》		
	ヴェルディ《アイーダ》		
		四世杵屋六三郎《勧進帳》	
		近松半二「新版歌祭文」から《野崎村の段》	
		日本の郷土芸能	
			世界の諸民族の音楽
2 3 下	スメタナ《ブルタバ（モルダウ）》		
	モーツァルト「レクイエム」から《涙の日》		
	ショパン《エチュードハ短調（革命）》		
	ドボルザーク《交響曲第9番「新世界より」から》第1楽章		
	ストラヴィンスキー バレエ音楽「春の祭典」から《序奏》～《春のきざし》		
		平調《越天楽》	
		羽衣	
			世界の諸民族の音楽
			ポピュラー音楽

注 ゴシック体：他社（教育出版）でも扱われている。

表5, 6は, 教育出版の鑑賞教材を一覧にした¹³。ここでも西洋音楽, 日本音楽, 世界音楽が満遍無く掲載されている。ベートーヴェン¹⁴の交響曲第5番のみ小中ともに扱われている鑑賞教材である。西洋音楽に着目すると, 小学校ではバロック1曲, 古典派1曲, ロマン派7曲, 近代1曲であり, 絶対音楽は2曲である。中学校ではバロック2曲, 古典派1曲, ロマン派6曲, 近代1曲であり, 絶対音楽は1曲である。

表5 教育出版の小学校教科書における鑑賞教材

	西洋音楽	日本音楽	世界音楽
5		いろいろな合唱（滝廉太郎）	
	シベリウス 組曲「カレリア」から「行進曲風」に		
		《会津磐梯山》 《音戸の舟歌》	
			世界の音楽
	ハチャトリヤン《つるぎのまい》		
	シューベルト ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章		
		九世杵屋六左衛門 長唄「越後獅子」から 六世福原百之助《京の夜》	
6	ブラームス《ハンガリー舞曲第5番》		
	パッヘルベル《カノン》		
	ベートーベン 交響曲第5番「運命」第1楽章から		
	フランク バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章		
		宮城道雄《春の海》	
	ドボルザーク 交響曲第9番「新世界より」第4楽章		
	ショパン《別れの曲》		
		武満徹《雨の樹》	
	ガーシュイン《ラブソディーインブルー》		

注 ゴシック体：他社（教育芸術社）でも扱われている。

表6 教育出版の中学校教科書における鑑賞教材

	西洋音楽	日本音楽	世界音楽
1	ヴィヴァルディ《春》（「和声と創意の試み」第1集「四季」から）第1楽章		
	シューベルト《魔王》		
		日本の民謡と芸能	
		八橋検校 箏曲《六段の調》	
			日本とアジアをつなぐ音
	スメタナ《ブルタバ（モルダウ）》		
2	バッハ《小フーガ短調》		

3 上	ベートーヴェン 交響曲第5 番ハ短調から第1楽章		
		雅楽「越天楽」(平調)	
		四世杵屋六三郎 長唄「勧進 帳」から	
			日本と世界をつなぐ音
	リムスキー・コルサコフ 交 響組曲「シェエラザード」か ら第2楽章		
	ムソルグスキー 組曲「展覧 会の絵」から		
2 3 下	ラヴェル《ボレロ》		
	ヴェルディ「アイーダ」から 第2幕第2場		
			くらしとともにあるさまざま な音楽
		能「羽衣」キリから	
		文楽「義経千本桜」から	
	ロドリーゴ《アランフェス協 奏曲》		

注 ゴシック体：他社（教育芸術社）でも扱われている。

中学校第1学年の教科書に着目すると、《春》《魔王》、《六段の調》と日本の民謡、アジアの音楽は、両出版社において掲載されている。なお、現在、鑑賞に関しては共通教材が規定されていないが、《春》《魔王》《六段の調》については、かつて共通教材として指定されていた。このように、小学校では特に西洋音楽に関して各社独自の選曲をした傾向がみられたのに対し、中学校ではかつての共通教材に準拠した共通した傾向がみられる。

ところで表3～6から、各教科書において、世界音楽が扱われていることが分かった。ここではどこの地域が扱われているかについて詳しくみていきたい。

表7、8に示した通り、アジアの音楽のウェイトが大きい。教育芸術社では、「アルフー」が小中で扱われている。教育出版では、「ガムラン」「ゴスペル」「ブルガリアの合唱」が小中で扱われている。

表7 教育芸術社における世界音楽

	アジア	アフリカ, アメリカ	ヨーロッパ
5	ホーミー (モンゴル)		
	ケチャ (インドネシア)		
		ゴスペル (アメリカ)	
			ヨーデル (スイス等)
6	アルフー (中国)		
	ガムラン (インドネシア)		
	メヘテルハーネ (トルコ)		
		フォルクローレ (ペルー, ボ リビア等)	

			バグパイプ（イギリス）
1	カヤグム（朝鮮半島）		
	アルフー（中国）		
	オルティンドー（モンゴル）		
	ガムラン（インドネシア）		
	カッワーリー（パキスタン等）		
2	京劇（中国）		
3	ウズン ハワ（トルコ）		
上		グリオの歌（セネガル等）	
		ヒメネ（ポリネシア）	
2	ピーパー（中国）		
3	サウンガウ（ミャンマー）		
下	シタール（インド）		
		チャランゴ（ボリビア等）	
			ツィター（オーストリア等）

注 ゴシック体：他社（教育出版）でも扱われている。ただし、同一の校種。

表8 教育出版における世界音楽

	アジア	アフリカ、アメリカ	ヨーロッパ
5	ホーミー（モンゴル）		
	アルフー（中国）		
	ガムラン（インドネシア）		
	ウッド（イラク等）		
		グリオの語りとコラの演奏（セネガル等）	
		フォルクローレ（ペルー、ボリビア等）	
		ゴスペル（アメリカ合衆国）	
			ブルガリアの合唱（ブルガリア）
			ヨーデル（スイス等）
			バグパイプ（イギリス）
1	カヤグム（朝鮮半島）		
	アリラン（朝鮮半島）		
	オルティンドー（モンゴル）		
	グージョン（中国）		
	ガムラン（インドネシア）		
	ケチャ（インドネシア）		
	影絵芝居（インドネシア）		
	シタール（インド）		
2	ピーパー（中国）		
3	ウッド（西アジア）		
上			リュート
2	ジンジュ（京劇）（中国）		

3 下		アルゼンチン・タンゴ (アルゼンチン)	
		ゴスペル (アメリカ合衆国)	
			フラメンコ (スペイン)
			女声合唱 (ブルガリア)

注 ゴシック体：他社（教育芸術社）でも扱われている。ただし、同一の校種。

その他、小学校においては滝廉太郎が両出版社で掲載されている（《花》《箱根八里》）。さらに教育出版では、《荒城の月》《箱根八里》が表現としても紹介される（第6学年）。中学校では鑑賞として掲載されていないものの、《荒城の月》¹⁵《花》¹⁶は、歌唱の共通教材として指定、掲載されている。つまり、小学校で学習した楽曲を中学校において表現として再び取り上げられており、関連が図られている。

中学校では歌唱の教材として指定されている《赤とんぼ》¹⁷の作曲者の山田耕筰に関しては、小学校において教育芸術社では《待ちぼうけ》¹⁸《赤とんぼ》《この道》¹⁹が鑑賞として取り上げられている。一方、教育出版では、鑑賞ではなく、表現として《ペチカ》²⁰《待ちぼうけ》が紹介されている（第5学年）。

これらのことから、日本の偉大な作曲家である滝廉太郎、山田耕筰に関しては、小中連携を図った教材配列がされていることが分かる。

おわりに

鳥取大学附属小・中学校は、1999（平成11）年、文部省指定・研究開発学校として、小中連携の実践研究に着手し、カリキュラム開発、評価、学習意欲の育成、授業の創造に関して、2010（平成22）年度まで取り組まれた。音楽に関しては、体験活動が伴った多文化音楽学習が展開されていた。

現行の学習指導要領においては、小学校「様々な音楽」、中学校「多様な音楽」とやや表記は異なるものの、西洋音楽に限らず、幅広いジャンルの音楽を取り扱い、日本の音楽や言語に関する活動が重視されていることが確認できた。

教科書においても、西洋音楽、日本音楽、世界音楽が満遍無く掲載されている。現在、鑑賞に関しては共通教材が規定されていないが、中学校ではかつての共通教材に準拠した掲載の傾向がみられる。特に中学校第1学年に着目すると、《春》《魔王》、《六段の調》と日本の民謡、アジアの音楽は、教育芸術社、教育出版の両社において掲載されている。また、滝廉太郎、山田耕筰に関しては、小学校では鑑賞、中学校では歌唱で取り上げられ、小中連携を図った教材配列がされている。

今後は、この基礎資料を基に、カリキュラムを作成していく計画である。さらには学習の振り返りや子どもによる自己評価の確立を図った、小中で一貫して使用できる「鑑賞ポートフォリオ」を作成していきたい。それと同時に、子どもの発達や実態に基づいた音楽デジタル教科書の活用や自作鑑賞教材の開発を進め、情報通信技術（ICT）を活用した「分かりやすく深まる授業」の実現を目指して研鑽していきたい。

付記

本稿は、2015（平成27）年度鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センターの教育実践部門運営費の助成を受けた。

注

- ¹ 河村茂雄「提言③学級経営の視点から なれあい型と管理型, 学級集団の型の違いが中1ギャップにつながる」『総合教育技術』第68巻第15号, 小学館, 2014年, 27頁。
- ² 藤江康彦「幼・小・中の学びをつなぐ教育の課題：発達の連続性に応じた実践にむけて」『児童教育17』お茶の水女子大学附属小学校・NPO法人お茶の水児童教育研究会, 2007年, 2-5頁。
- ³ お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校・中学校・子ども発達教育研究センター『「接続期」をつくる：幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働』東洋館出版社, 2008年, 32頁。
- ⁴ 文部科学省「小学校と中学校との連携についての実態調査（結果）」2011年, 57頁。
- ⁵ 朝日新聞（大阪本社）朝刊, 2016年4月8日、29面, 「義務教育学校」開講：小中一貫, 大阪など22校。
- ⁶ 文部科学省教育課程企画特別部会「論点整理」2015年8月26日, 23頁。
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
(2016年5月15日閲覧)
- ⁷ なお, 2015（平成27）年12月4日, 広島大学附属三原学校園にて開催された「平成27年度第18回幼小中一貫教育研究会」では, 文部科学省の研究開発学校の指定を受けていた新潟大学教育学部附属長岡校園, 香川大学教育学部附属中学校, 広島県北広島市芸北小学校・中学校の3校園を交えてシンポジウムが行われた。
武田信吾「先進校訪問調査報告（2）」土井康作代表『平成27年度鳥取大学学長経費「附属学校園との教育連携プロジェクト研究」報告書』2016年, 39-42頁。
- ⁸ 三村真弓「音楽的リテラシーの育成を目指した保幼小中連携カリキュラムの開発」基盤研究（B）2008-2011年, 科学研究費助成事業研究成果報告書, 2012年, 2頁。
- ⁹ 鳥取大学教育地域科学部附属小・中学校『平成13年度研究開発実施報告書』2001年, 124頁。
- ¹⁰ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社, 2008年。
- ¹¹ 文部科学省『中学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社, 2008年。
- ¹² 2015（平成27）年度使用の以下の教科書を対象とした。鑑賞に着目しているため, 中学校の器楽教科書は対象としていない。なお, 中学校の教科書に関して, 2016（平成28）年度は, 2015（平成27）年に検定済の新しい教科書が使用されている。
小原光一他『小学生の音楽5』教育芸術社, 2015年（2014年検定済）。
小原光一他『小学生の音楽6』教育芸術社, 2015年（2014年検定済）。
小原光一他『中学生の音楽1』教育芸術社, 2013年（2011年検定済）。
小原光一他『中学生の音楽2・3上』教育芸術社, 2013年（2011年検定済）。
小原光一他『中学生の音楽2・3下』教育芸術社, 2013年（2011年検定済）。
- ¹³ 2015（平成27）年度使用の以下の教科書を対象とした。鑑賞に着目しているため, 中学校の器楽教科書は対象としていない。なお, 中学校の教科書に関して, 2016（平成28）年度は, 2015（平成27）年に検定済の新しい教科書が使用されている。
新美徳英他『小学音楽 音楽のおくりもの5』教育出版, 2015年（2014年検定済）。
新美徳英他『小学音楽 音楽のおくりもの6』教育出版, 2015年（2014年検定済）。
三善晃他『中学音楽1 音楽のおくりもの』教育出版, 2013年（2011年検定済）。
三善晃他『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』教育出版, 2013年（2011年検定済）。
三善晃他『中学音楽2・3下 音楽のおくりもの』教育出版, 2013年（2011年検定済）。
- ¹⁴ 小学校では「ベーターベン」, 中学校では「ベーターヴェン」と表記されている。文部科学省編『教育用音楽用語』（2002年, 116頁）では, どちらの表記も認められている。
- ¹⁵ 土井晩翠作詞。
- ¹⁶ 武島羽衣作詞。
- ¹⁷ 三木露風作詞。
- ¹⁸ 北原白秋作詞。
- ¹⁹ 北原白秋作詞。
- ²⁰ 北原白秋作詞。

（2016年6月3日受付, 2016年6月23日受理）